

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「精巣腫瘍患者のニーズ調査」

研究分担者 中村晃和 大阪府済生会吹田病院 泌尿器科 科長

研究要旨：

希少がんであり AYA 世代男性がんの代表である精巣腫瘍患者のニーズを把握し、問題点を掘り起こしその対策を行う。

A．研究目的

泌尿器科領域において、AYA世代男性がんの代表は、精巣腫瘍（胚細胞腫）である。しかし、発生頻度が10万人に約1-2人と低く、患者のニーズ把握などについての研究は不十分である。また、AYA世代とは言ってもやや年齢層が高く、就労や家庭、妊孕性の問題を抱えながらの治療となる。本研究では、希少がんでありAYA世代男性がんの代表である精巣腫瘍患者のニーズを把握し、問題点を掘り起こしその対策を行うことを目的とする。

B．研究方法

京都府立医科大学付属病院で治療中および経過観察中の患者に対して、本研究グループの統一調査票を用いて実態調査を行う。また、精巣腫瘍患者会を通じて、サバイバーの似ず発掘に努める。

（倫理面への配慮）

京都府立医科大学のIRB申請を行なった。回答は無記名で、アンケート用紙の返送をもって、同意を得られたと判断する。

C．研究結果

妊孕性や就労についての不安が浮き彫りとなったが、相談できる部署などが明確でなく、とくに男性のがんの場合、その支援体制の脆弱性が明らかとなった。

D．考察

社会生活や家庭生活の中で、中心的な役割を果たしてゆくべき年代であるが故のくのうがあると推察された。妊孕性（精子保存や射精神経温存手術）に対する周知がいきわたらず、情報が手に入りにくいと考えられた。

E．結論

情報の周知の方法や医療者間のネットワークづくりが必要と考えられた。婦人科領域で進んでいる事象を参考に、男性がん患者に対する情報発信の方法を模索する必要がある。

G．研究発表

1. 論文発表

Nakamura T et al.
Post-chemotherapy laparoscopic retroperitoneal lymphnode dissection is feasible for stage IIA/B non-seminoma germ cell tumor
Int J Clin Oncol. 2016;21:791-5

2. 学会発表

・中村晃和 「がんと性機能UP DATE2016」
進行性精巣腫瘍における射精神経温存後腹膜リンパ節郭清
第27回日本性機能学会 2016/8/25-28, 大阪
・中村晃和 「オンコロジーから見たがん・生殖医療の現状と問題点」～精巣腫瘍～
第1回日本がんサポーターブケア学会
2016/9/3-4, 東京
・中村晃和 進行性精巣腫瘍の化学療法後残存腫瘍に対する腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清
第54回日本癌治療学会学術集会
2016/10/20-22, 横浜

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

該当なし